

技能賞

学会賞技能賞を受賞して



有限会社屋根星
星野道人

この度は(一社)全日本瓦工事業連盟の推薦で、日本建築仕上学会学会賞 技能賞を賜り、身に余る光栄と深く感謝するとともに、この受賞に際し、ご尽力いただいた関係各位に御礼申し上げる次第であります。

私は、昭和43年に自営である「星野屋根工事店」に屋根葺き工として職に就き、親方(父親)の厳しい指導の下で技能の習得に努めてまいりました。しかし、昭和52年に師と仰いだ父親を亡くし、その跡を継いで事業主となり、平成6年に有限会社「屋根星」を設立しました。代表取締役となってからも一貫して屋根葺き工に従事し、技能の向上、生産性の向上に努めてまいりました。

技能の向上を追求する中で、早く一人前になりたい、早く技術を身に着けたいという思いで、一級技能士の資格を取得し、技能をより発揮できる寺社建築を中心に研究を重ねました。

しかし、この寺社建築の瓦葺き工事は一般住宅と比較して、大変奥深く、建築物の美しさを引き立たせる屋根施工の良否は欠かせないものである。城郭や寺社建築での本瓦葺きの技能を磨き、文化財保護の観点からも多くの寺社建築を手掛け保存・修復を行ってまいりました。

一般住宅の瓦葺きでは、現在、棧瓦が主流となっています。古来からの一文字葺、入母屋、寄棟屋根による施工では本瓦葺きの技能を活かすとともに、美観だけでなく、すべての瓦一枚一枚にステンレス製のビスで留付けを行うなど、台風・地震などに耐えうる独自の耐震・耐風対策を施しながら、施工してまいりました。

また、かわらぶき技能検定委員として平成14年から17年間、実技試験全般を統括するとともに、新任の技能検定委員や補佐員の技能向上に努めてきました。そして、後進の育成として職業訓練法人愛知県瓦協会の運営する愛知県瓦高等職業訓練校において、平成9年から実技学科の指導員、平成18年から教務主任を務めさせていただきました。そして、平成30年から現在まで校長として屋根施工の技術と専攻学科の指導にあたり、後継者育成に努めています。

幸いにも、こうした活動が認められ、今まで愛知県知事表彰(優秀技能者・団体役員の功労・認定職業訓練功労者)・国土交通大臣顕彰(優秀施工者)・厚生労働大臣表彰(技能検定功労)・瑞宝単光章(技能検定功労)を受賞させていただきました。そして、今回の日本建築仕上学会学会賞 技能賞を受賞させていただき、関係各位に敬意を表するとともに、この賞に恥じないように、今後も技術の研鑽に努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。本当にありがとうございました。

技能賞

学会賞(技能賞)を受賞して



株式会社リフォームジャパン
浅田和弘

この度、2023年 日本建築仕上学会賞(技能賞)を受賞することができ、

大変恐縮しています。また、推薦していただいた全国ビルリフォーム工事業協同組合の関係各位に感謝いたします。

私は22才の時に改修工事を主とする会社に就職し、37才の時に現在の株式会社リフォームジャパンに転職、現在までの38年間現場管理を主に行ってきました。株式会社リフォームジャパンに入社した当時、外壁複合改修工法(ピンネット工法)に初めて携わりましたが、当時は自分でコテを持って施工することなど出来ず、左官業の作業員も初めて使う方が多い状況でした。そのような中で作業員に的確な指示を出すことは難しかった記憶があります。いくつかの外壁複合補修工法現場を納めながら、自分でもコテを持って施工が出来なければ慣れない作業員に指示を出せないと考え、慣れた人のコテの使い方や塗り方を観察して、自分でも施工出来るように練習しながら施工を覚えてきました。

現場という所は様々で、問題なく進んで完了する場合や、数多くの難題がある現場など、すべての現場で違いがありますが、その現場毎の工期・品質・安全・コストを考えながら現場を進めるためには決して私一人の力では出来ません。

私は現場管理では専門の技術と知識を持った作業員が大切だと考えています。現場では作業している所を見ながら自分

でも少し作業してみて、効率が悪くないか、品質に問題はないかなどを考えて作業員に話を聞き、改善出来るところを全員で考えて実施しながら現場を納め、自分の経験や知識を積み重ねながら次の現場にも反映してきましたので、実際に作業して下さる方はとても大切な存在です。

今回の栄誉ある日本建築仕上学会賞技能賞の受賞は、私の力ではなく一緒に現場を進めてきてくれた仲間である作業員の力が大きいと思っています。

現在60才となり、これから数年現場管理を続けさせていただきますが、これからも仲間の力を借り、自分の出来ること、やらなければいけないことを実行したいと思っています。

技能賞

学会賞を受賞して



有限会社大野塗装店
元親 厚

この度、プラスターボードのパテ施工見本作成による後進の指導・育成に対する貢献をしたとし日本建築仕上学会学会賞「技能賞」という名誉ある賞を頂き誠に光栄に思います。

また御推薦を頂きました全国マスチック事業協同組合連合会・会社関係者各位の方々には深く感謝し皆様のお力添えがあってこそこの賞だと思っております。

高校を卒業後すぐ現在の会社へ入社し27年目となりますが、当時の塗装業界では珍しく女性の職人が登用されており、女性ならではの丁寧な仕事がされていたことや、職人が使う道具が統一されており先輩の施工の手順などを理解しやすい体制が整えられた環境の会社であることに恵まれ感謝しております。

時代とともに材料・道具・施工方法が良くなるにつれ、会社が時代に合わせた取組みにも果敢に挑戦しており、私自身も新しいことへチャレンジが出来るという向上心を持つことで、仕事に対してやりがいのある日々を送っております。

まだまだ発展途上の塗装業界で、美学に挑戦しお客様に安心して仕事を任せて頂けるよう、今後これまでの経験を活かし常に周囲への感謝の気持ちを持ち今後も上司や諸先輩方から教わった基本を忘れず後進の指導育成に努めて参りたいと

思います。

この賞に恥じめよう、技術の向上に日々努力し精進していく所存です。

技能賞

日本建築仕上学会 学会賞
技能賞を受賞して

株式会社ティーエス・ハマモト
川崎健志

この度の栄えある受賞は、(一社)日本塗装工業会のご推薦、並びにご選考頂いた委員の皆様にお礼を申し上げます。

私は、高校を卒業した後、土木関係の会社に勤めておりました。

下水道、道路加工・災害復旧工事など数多くの土木現場を経験して参りました。

土木工事でも大変やり甲斐があり学ぶ事も多く貴重な経験を重ねさせて頂きましたが、元々工業高校の建築科を卒業している為、建築関係の仕事にも挑戦してみたいと思い立ち、現在勤務している会社に入社致しました。

入社当初は、協力会社の方々と一緒に現場で塗装作業を行い、戸建て住宅・マンション新築・商業施設などの現場で経験を積んで参りました。塗装工事は、養生から仕上げまで工程も多く、塗装仕様も様々で、温度、湿度などの気象状況も仕上がりに影響してくる…と塗装の奥の深さを日々痛感しておりました。

そうした日々の中で、技術、技能の習得に励み1級建築塗装技能士の資格を取得しました。

塗装技能だけでなく、2級建築士、1級建築施工管理技士と取得し、建築全般における知識の向上を目指して取り組んで参りました。各職種の工程・品質などを良く理解し、設計・施工・管理と幅広い分野で業務ができると思いい現在に至っております。

現場は生き物と言われておりますが、まさにその通りです。その現場にあった工法・技法を専門の知識を持つ我々が正確に判断し、意見を出し合い協議していくことが責務だと感じております。併せて、社内でのOJT実施を積極的にい